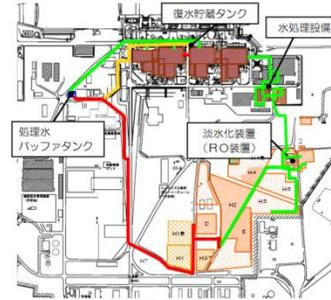
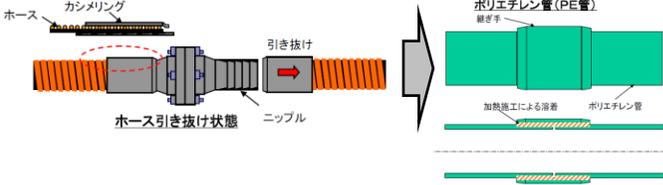


◎改訂ポイント1 信頼性向上に係る実施計画を反映

【事例】循環注水冷却設備の信頼性向上対策

循環ライン配管のうち漏水を起こした耐圧ホースについて、2012年9月（一部12月）までにポリエチレン管に取替。



※詳細ルートは現場調査等を念めて調整中
 ●ポリエチレン管済（一部調査を含む）
 ●ポリエチレン管等に変更予定（9月）（次循環ラインPE管化）
 ●ポリエチレン管等に変更予定（12月）（CST適用変更に合わせて実施）

◎改訂ポイント3 作業の進捗に対応して、目標を明確化

【事例】多核種除去設備の導入
 サリー、キュリオンで処理した後の水に残留する放射性物質の濃度を大幅に低下させる多核種除去施設を本年8月から導入する。



吸着塔外観図

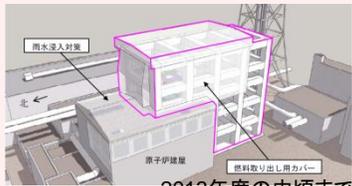


多核種除去設備設置エリア全景(7/21)

◎改訂ポイント2 これまでの主な成果

・使用済燃料プール内の燃料の取り出し

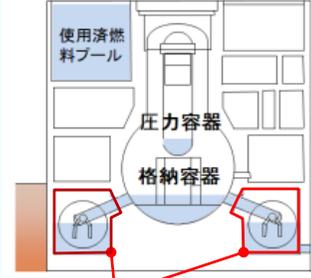
◎4号機建屋上部瓦礫撤去 2012年7月に瓦礫撤去完了。



2013年度の中頃までに設置

・原子炉からの燃料デブリ取り出し

◎3号機格納容器内部調査 2012年7月に、遠隔操作ロボットによりトラス室内を調査。



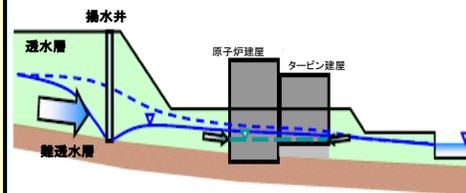
トラス室内の様子



調査ロボット
(サーベイランナー)

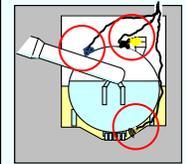
・原子炉冷却、滞留水処理の安定的継続、信頼性向上

◎地下水流入の抑制 建屋に流入している地下推量の低減化を図るため、山側から流れてきた地下水を建屋の上流で揚水し、建屋内への地下水流入量を抑制する取組(地下水バイパス)に着手。



・研究開発体制の強化

◎燃料デブリ取り出し準備、放射性廃棄物処理分野等のプロジェクトを推進。
 ◎福島地域における国際的な研究拠点形成に向けた検討を開始(核種分析、遠隔操作技術実証)。
 ◎中長期的な人材確保・育成に着手。



格納容器内調査・補修のためのロボット開発



分析施設のイメージ

・作業円滑化のための環境整備

◎作業安全確保の観点から、熱中症発生防止のため、従来品より通気性のよいカバーオールを2012年6月下旬から配備。
 ◎協力企業作業員による警報付きポケット線量計(APD)の不正使用問題を受け、引き続きコンプライアンスの徹底を図るとともに、再発防止策を講ずる。